

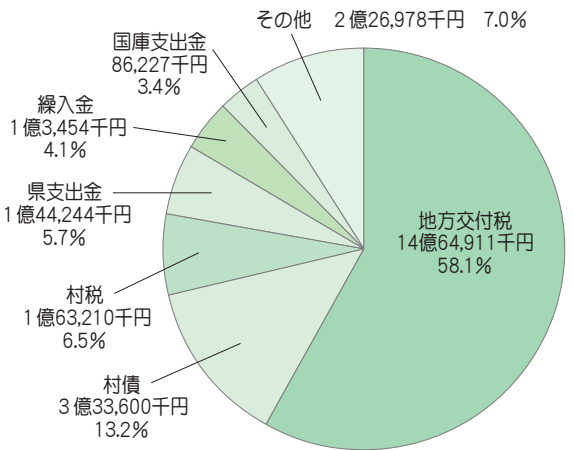
15年度末 の 財政状況 (下半期)



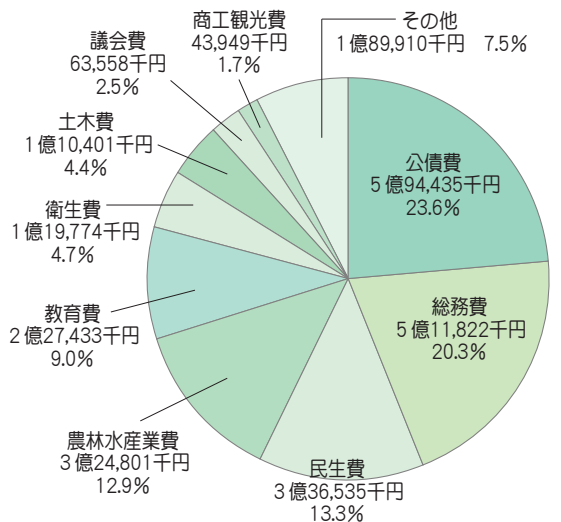
大切な「村のお金」、子どもたちが笑顔でいられる村を目指します

一般会計

歳入 25億22,624千円



歳出 25億22,624千円



予算、それは一年の計画

村の会計には一般会計と特別会計があります。一般会計というのは「議会費」から「公債費」(用語の説明は3ページ)までの村の基本的な仕事

のためのものです。村の予算は、村民の皆さんの生活を守るために一年間(四月から翌年三月まで)どのようにお金を使うか計画す

るものです。その予算の中には、皆さんが納めている大切な税金も含まれています。行政では一般的に家庭でいう収入は歳入、支出は歳出といいますが、表の中に出てくる基金とは簡単にいえば貯金にあたり、村債というのは借金にあたり、村債というは借金になると、この基金を取り崩したりしながら、村の財政を運営していきます。

平成十五年度に普代村に入ってきたお金(歳入)は二十五億二千二百六十二万四千円。前年度より約二億五千万円ほど減っています。この限られたお金を村民の皆さんのために、無駄なく有効に使うことが村の仕事です。村では新しい年度が始まる前に、この歳入を老人・児童福祉や農林水産業、道路、漁港の整備など、どこにどのようにお金を使ったら良いか計画を立てます。つまり予算を組みます。村民の皆さんの生活向上、快適環境づくりに十五年度の予算がどのように使われてきたのか、平成十六年三月三十一日現在の予算状況(十五年十月一日から十六年三月三十一日十五年下半期)をお知らせします。(出納閉鎖は五月三十一日)

特別会計というのは一般会計とは別に、その会計ごとの収入で支出を賄うことを基本とします。村には国民健康保険、国民健康保険診療施設、簡易水道、休養施設、老人保健、漁業集落排水の六つの特別会計があります。